

教育事務所

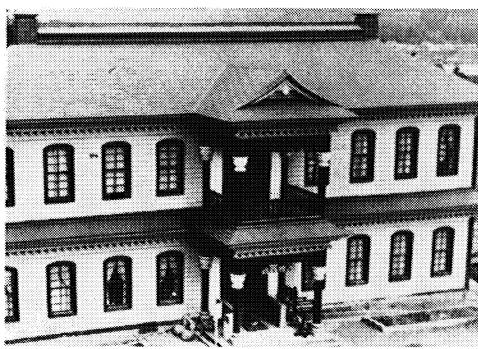
日誌

—南会津—

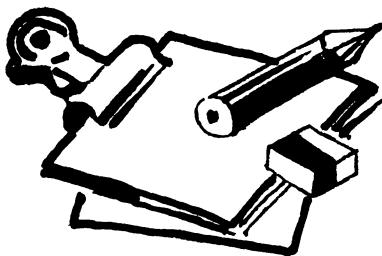
明治の薰りを漂わす「奥会津民俗資料館」
開発する南会津に明治の面影を残す数少ないものの一つになった。

旧郡役所として明治十八年に建てられた洋風一部二階建内庭式の木造建築物である。建築関係費は当時の金で約七千七百円ほど、官民一体となつての建築過程での苦労は、今でもいろいろと語り継がれている。

昭和四十五年、県合同庁舎改築に際し地方民の建物への郷愁と愛着とは、その保存への願いとなつた。當時、この建物の文化財的価値についての認識は、一部の人を除いてほとんどなかつたようである。しかし、地元民のこの建物への愛情とやがて行われた価値調査による建物の見直しは、保存へ向け



奥会津地方歴史民俗資料館前景(現合同庁舎3階より)



展示室の一部



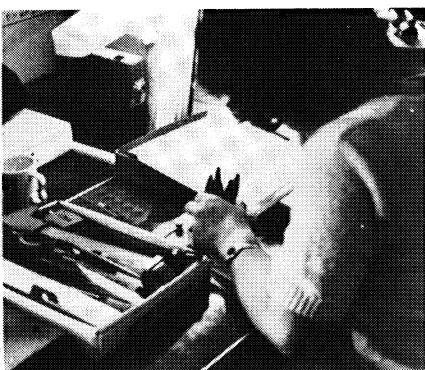
で難工事を余儀なくされた。

移転修復の段階では、移転後の価値利用についての検討も進められた。「牛どん屋を開いては」などという話題が真剣に語られたという裏話を残っている。

田島町在住の佐藤耕四郎氏がいる。氏は前々から南会津地方に伝え用いられてきた生活、生産用具の収集家として知られていた。氏の所蔵物の展示が話し合われ、順調に進み、具体的検討が加えられた。古い土蔵の中や家の片すみに見捨てられていたかつての主役にスポットをあてる作業が始まつた。

展示の苦労話もたくさんある。重文としての建築物へ、傷一つつけずに展示するための方法について夜を徹しての検討が十日余も続けられたという。穴あきパネルを室内に組んでの展示法の考案もこの時にたどり出された。

洋風一部二階建内庭式木造建築、収蔵展示物、八千余点、うち木地類など五百余点は県指定の文化財、とくに、農山村における生活、生産用具の文化



実測図の描画作業